



Title	スイスのドイツ語：方言と標準変種の接点
Author(s)	熊坂, 亮
Citation	独語独文学研究年報, 36, 22-40
Issue Date	2010-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/42880
Type	bulletin (article)
File Information	NJGS36_002.pdf



[Instructions for use](#)

スイスのドイツ語—方言と標準変種の接点—

熊坂 亮

1. 導入

ドイツ語圏スイスの人々によって、話し言葉として用いられるのが「スイスドイツ語 (Schweizerdeutsch)」であるのに対し、書き言葉として用いられるのは、スイスの標準変種である標準ドイツ語、すなわち「スイス式標準ドイツ語 (Schweizerhochdeutsch)」である¹。ドイツ語圏各国における公用語としての標準ドイツ語は、統一的にコード化された言語として理解されがちであるが、ドイツ語は複数中心 (plurizentrisch) の言語である。つまり、ドイツ・オーストリア・スイスなど、ドイツ語を公用語とするそれぞれの国家に独自の標準変種が存在するということである。Ammon (1995: 9-11)は、このことを包括的に示すものとして、ドイツ・オーストリア・スイスの標準変種をはじめとする様々な標準ドイツ語のテキストを例示しており、これらと比較してみると、それぞれの標準変種の間に語彙や文法などの面で様々な差異が観察される。以下に示すのは Ammon (1995)からドイツの標準変種 (Binnendeutsch) とスイスの標準変種のテキストを一部抜粋したもので、(1a)と(2a)はドイツの標準変種の文、(1b)と(2b)はスイスの標準変種の文である (下線原文)。

(1) a. Dann schwang ich mich auf mein Fahrrad, um zu meiner Wohnung zu fahren, die in einem alten Fachwerkhaus innerhalb der Stadtmauer liegt. (Ammon 1995: 9)

b. Dann schwang ich mich auf mein Velo, um zu meiner Wohnung zu fahren, die in einem alten Riegelhaus innert der Stadtmauer liegt. (Ammon 1995: 10)

「そして私は、町の外壁の内部に造られた古い木骨家屋にある自分の部屋に向かうため、自転車に飛び乗った。」

(2) a. Über mir hörte ich ein Radio. (Ammon 1995: 9)

b. Über mir hörte ich einen Radio. (Ammon 1995: 10)

「私の上の方でラジオが聞こえていた。」

(1)について見ると、ドイツの標準変種(1a)ではそれぞれ Fahrrad (「自転車」)、Fachwerkhaus (「木骨家屋」)、innerhalb (「…の内部で」) が用いられるのに対し、スイスの標準変種(1b)では、それぞれ Velo、Riegelhaus、innert という語が用いられている。また、(2)が示すのは、Radio (「ラジオ」) がドイツの標準変種(2a)では中性名詞であるのに対し、スイスの標準変種(2b)では男性名詞となっているということである。このようにスイスの標準変種を特徴付ける独自の要素は、「スイス語法 (Helvetismus)」と呼ばれる。

スイスの標準変種にはドイツの標準変種と異なる要素が出現するというのは、それ自体たしかに興味深い点である。しかし、さらに注目すべきなのは、こうしたスイス式標準ド

¹ 以下、本稿では「スイスの標準変種」と「スイス式標準ドイツ語」を同義で用いる。また、「スイスドイツ語」と「方言」を同義で用いる。

イツ語の特徴的な要素の多くがスイスドイツ語、すなわち方言と共有されているという点である。たとえば、(1b)の *Velo* はフランス語からの借用語、そして *innert* は古いドイツ語の名残と理解されるが、これらは方言でも使用される。また、(2b)が示すように、スイスの標準変種では *Radio* は男性名詞であるが、これは方言においても（少なくともチューリヒ方言では）男性名詞である。こうした事実に着目してみると、語彙や名詞の性だけでなく、他の様々な言語現象がスイス式標準ドイツ語と方言で共有されているということが予測される。

本稿の目的は、言語的な特徴に関して、スイスドイツ語とスイス式標準ドイツ語の接点を探ることである。本稿では、すでに Meyer (1989, 1994)、Russ (1994)、Ammon (1995)、Haas (2000)、Rash (2002)などが指摘しているスイス式標準ドイツ語の様々な特徴のうち、方言と共有されていると判断できるものを選び出し、決して網羅的ではないが語彙・正書法・発音・語形成・文法の各側面から観察していく。ここで比較対象とする方言の言語現象は、チューリヒ方言のものである²。

2. スイス式標準ドイツ語の語彙とスイス語法

スイス語法として特徴付けられるスイス式標準ドイツ語の語彙には、オーストリアやドイツ南部および西部など、スイスの近隣地域と共有されているものもあれば、スイスの一部の地域でしか使用されないものもある。Meyer (1994: 23-25)によると、これらの語彙はその通用範囲という観点から、A)スイスでのみ使用されるもの (*reine Helvetismen*) に加え、B)スイスとその近隣地域と共通しているもの (*Helvetismen plus*)、C)スイスの特定の地域でのみ使用されるもの (*Helvetismen minus*) に分類することができる。また、Haas (2000: 100-101)は、上記の A)に相当する、それ自体スイス独自でありドイツの標準変種では用いられないもの (*Lexikalische Helvetismen*)、D)語彙自体はドイツの標準変種でも用いられるが、意味がスイス独自であるもの (*Semantische Helvetismen*) という、語と意味の独自性という観点からの分類を導入している。Meyer (1989)の辞典に約 4000 件が収められているように、その例となる語はきわめて多数であるため、本稿ではその代表的なものを挙げるにとどめる³。

² 周知のように、スイスドイツ語には音韻・形態・語彙・文法などの様々な面で地域ごとの差異がきわめて多様に存在する。それゆえ、スイスドイツ語に特徴的とされる言語現象のすべてがスイスドイツ語のあらゆる変種に共通して観察されるわけではない。このような理由から、比較の対象をスイスドイツ語の一つの変種に限定する必要がある。その一例として、本稿ではチューリヒ方言を取り上げている。もちろん、「チューリヒ方言」と呼ばれる変種の内部にも、主に音韻の面で地域差が存在する。これについては Weber (1987: 18-24)を参照されたい。

³ これらの出典は上記の Meyer (1989, 1994)、Russ (1994)、Ammon (1995)、Haas (2000)、Rash (2002)であるが、語源として併記されている古語や借用語は筆者が追加したものである。bdt.欄が空欄になっているのは、(ドイツの標準変種において対応する単語が存在しないなどの理由から) 引用元に記載がないことを示す。

なお、本稿で用いる言語名の略号は次の通りである。bdt.=ドイツの標準ドイツ語、frz.=フランス語、gr.=ギリシャ語、it.=イタリア語、lat.=ラテン語、mhd.=中高ドイツ語、shd.=スイスの標準ドイツ語、slat.=後期ラテン語、span.=スペイン語、zd.=スイスドイツ語チューリヒ方言。

まず、使用範囲がスイスの領土と一致するスイス式標準ドイツ語の語彙としては、A1)日常生活に関連する事柄と、A2)社会・政治・軍事などの制度に関連する事柄を示す名詞が主である。これらは「国家的スイス語法 (Nationalhelvetismen)」と呼ばれることがある。

A1)	<i>shd.</i> [Auto]car	「バス」	<i>bd.</i> [Omni]bus
	<i>shd.</i> Camion	「トラック」	<i>bd.</i> Last[kraft]wagen
	<i>shd.</i> Chauffeuse	「(女性の) 運転手」	<i>bd.</i> FahrerIn
	<i>shd.</i> Coiffeuse	「(女性の理髪師)」	<i>bd.</i> Friseur
	<i>shd.</i> Comestibles	「珍味」	<i>bd.</i> Feinkost
	<i>shd.</i> Erdschlipf	「地滑り」	<i>bd.</i> Erdrutsch
	<i>shd.</i> Fluh	「岩壁」	<i>bd.</i> Felswand
	<i>shd.</i> Gotte	「代母」	<i>bd.</i> Patin
	<i>shd.</i> Götti	「代父」	<i>bd.</i> Pate
	<i>shd.</i> Jupe	「スカート」	<i>bd.</i> Rock
	<i>shd.</i> Kefe	「シュガービー」	<i>bd.</i> Zuckereerbse
	<i>shd.</i> Konfiserie	「ケーキ屋」	<i>bd.</i> Konditorei
	<i>shd.</i> Papeterie	「文房具店」	<i>bd.</i> Papierwarenhandlung
	<i>shd.</i> Töff	「オートバイ」	<i>bd.</i> Motorrad
	<i>shd.</i> Trottinett	「足踏スクーター」	<i>bd.</i> Tretroller
	<i>shd.</i> Türfalle	「ドアの握り」	<i>bd.</i> Türklinke
	<i>shd.</i> Velo	「自転車」	<i>bd.</i> Fahrrad
	<i>shd.</i> Zabig	「夕食」	<i>bd.</i> zu Abend
	<i>shd.</i> Zvieri	「4時のおやつ」	
A2)	<i>shd.</i> Ammann	「市(町・村)長」	<i>bd.</i> Gemeindepräsident, Bürgermeister
	<i>shd.</i> Busse	「罰金(刑)」	<i>bd.</i> Geldstrafe
	<i>shd.</i> Eidgenosse	「盟約者(スイス国民)」	
	<i>shd.</i> Fourier	「宿舎・会計係の下士官」	
	<i>shd.</i> Fürsprech[er]	「弁護士」	<i>bd.</i> Rechtsanwalt
	<i>shd.</i> Hauptverlesen	「点呼」	<i>bd.</i> Appell
	<i>shd.</i> Kantonsrat	「州議会(議員)」	
	<i>shd.</i> Nationalrat	「国民議会(議員)」	
	<i>shd.</i> Ständerat	「全州議会(議員)」	

また、A3)動詞、A4)形容詞、A5)前置詞、A6)副詞にもスイスに限定されるものがある。

A3)	<i>shd.</i> äufnen	「(財産などを)増やす」	<i>bd.</i> vermehren
	<i>shd.</i> bodigen	「地面に投げつける」	
	<i>shd.</i> ferggen	「発送する」	<i>bd.</i> abfertigen

	<i>shd.</i> gaumen	「保護する、維持する」	<i>bd.</i> hüten, bewahren
	<i>shd.</i> knorzen	「苦労する」	<i>bd.</i> sich abmühen
	<i>shd.</i> lismen	「編む」	<i>bd.</i> stricken
	<i>shd.</i> parkieren	「駐車する」	<i>bd.</i> parken
	<i>shd.</i> serbeln	「病弱である、しおれる」	<i>bd.</i> kränkeln, dahinwelken
	<i>shd.</i> vernütigen	「中傷する」	<i>bd.</i> verleumden
A4)	<i>shd.</i> blutt	「裸の」	<i>bd.</i> nackt
	<i>shd.</i> räss	「辛味のある」	<i>bd.</i> scharf
	<i>shd.</i> träf	「適切な」	<i>bd.</i> treffend
	<i>shd.</i> stotzig	「急傾斜の」	<i>bd.</i> steil
	<i>shd.</i> urchig	「自然のままの、土着の」	<i>bd.</i> urwüchsig, bodenständig
	<i>shd.</i> währschaft	「力強い、粗野な」	<i>bd.</i> kräftig, deftig
A5)	<i>shd.</i> ennet + Dat.	「…の向こう側で」	<i>bd.</i> jenseits + Gen.
	<i>shd.</i> innert + Dat.	「…の内側で」	<i>bd.</i> innerhalb + Gen.
A6)	<i>shd.</i> bis anhin	「今まで」	<i>bd.</i> bis jetzt
	<i>shd.</i> durchwegs	「一貫して」	<i>bd.</i> durchweg
	<i>shd.</i> inskünftig	「将来に」	<i>bd.</i> in Zukunft

様々な語彙をスイスと共有する近隣地域とは、主に南ドイツやオーストリアといった、上部ドイツ語（Oberdeutsch）の使用地域である⁴。そうした地域と共有される語彙は、B1)南ドイツおよびオーストリアで用いられる語彙と共通するもの、B2)南ドイツの語彙と共通するもの、B3)ドイツ南西部、すなわちアレマン方言の使用地域で用いられる語彙と共通するもの、B4)オーストリアの語彙と共通するものに分けられる。

B1)	<i>shd.</i> aper	「雪のない」	<i>bd.</i> schneefrei
	<i>shd.</i> Geiss	「山羊」	<i>bd.</i> Ziege
	<i>shd.</i> Kutteln	「臓物料理」	<i>bd.</i> Kaldaunen
	<i>shd.</i> Tobel	「峡谷」	<i>bd.</i> Schlucht
	<i>shd.</i> Runs, Runse	「急な山腹の岩溝」	
	<i>shd.</i> Stadel	「干草を保管する納屋」	
	<i>shd.</i> Wagner	「車大工」	<i>bd.</i> Stellmacher
B2)	<i>shd.</i> Beige	「堆積、山」	<i>bd.</i> Stoß, Stapel
	<i>shd.</i> beigen	「積み重ねる」	<i>bd.</i> aufschichten
	<i>shd.</i> motten	「かすかに光る、ふくらむ」	<i>bd.</i> schwellen, glimmen
	<i>shd.</i> Schaft	「本棚、架台」	<i>bd.</i> Regal, Gestell
	<i>shd.</i> Schoppen	「哺乳瓶」	<i>bd.</i> Säuglingsflasche
	<i>shd.</i> Schotte	「乳清」	<i>bd.</i> Molke, Käsewasser

⁴ Meyer (1994: 24).

B3)	<i>shd.</i> Hurde	「果物やジャガイモの貯蔵棚」	
	<i>shd.</i> Küfer	「桶作り職人」	<i>bdt.</i> Bötscher
	<i>shd.</i> sturm	「めまいのする、混乱した」	<i>bdt.</i> schwindlig, betäubt, verwirrt
	<i>shd.</i> Trotte	「ぶどう搾り器」	<i>bdt.</i> Kelter
	<i>shd.</i> Wähe	「タルト」	<i>bdt.</i> Flachkuchen
B4)	<i>shd.</i> antönen	「ほのめかす」	<i>bdt.</i> berühren, andeuten
	<i>shd.</i> drausbringen	「うろたえさせる」	<i>bdt.</i> aus dem Konzept bringen
	<i>shd.</i> Fauteuil	「安楽椅子」	<i>bdt.</i> Polstersessel
	<i>shd.</i> Gilet	「チョッキ」	<i>bdt.</i> Weste
	<i>shd.</i> heuer	「今年」	<i>bdt.</i> in diesem Jahr
	<i>shd.</i> Heustock	「納屋に積み重ねた干草」	
	<i>shd.</i> Identitätskarte	「身分証明書」	<i>bdt.</i> Personalausweis
	<i>shd.</i> Kassa	「金庫」	<i>bdt.</i> Kasse
	<i>shd.</i> Matura	「大学入学資格試験」	<i>bdt.</i> Abitur
	<i>shd.</i> Rahm	「クリーム」	<i>bdt.</i> Sahne
	<i>shd.</i> retour	「戻って」	<i>bdt.</i> zurück
	<i>shd.</i> Ross	「馬」	<i>bdt.</i> Pferd
	<i>shd.</i> Schärmaus	「モグラ」	<i>bdt.</i> Maulwurf
	<i>shd.</i> Spital	「病院」	<i>bdt.</i> Krankenhaus
	<i>shd.</i> Umfahrungsstrasse	「バイパス」	<i>bdt.</i> Umgehungsstrasse
	<i>shd.</i> Wegleitung	「指導、助言」	<i>bdt.</i> Anleitung, Unterweisung

また逆に、スイス全域の一部の州や地域といった範囲でのみ標準変種に出現する語彙もある⁵。これらは主に C1)生活に関連する言葉や、C2)政治や社会に関する用語である。

C1)	<i>shd.</i> Brente (西部)	「背負って運ぶ牛乳用の甕」	
	<i>shd.</i> Tanse (東部)	「背負って運ぶ牛乳用の甕」	
	<i>shd.</i> Clique (BS)	「鼓笛隊を擁して謝肉祭のパレードに参加するチーム」	
	<i>shd.</i> Dähre (SO, BE, FR, WS)	「松」	<i>bdt.</i> Föhre
	<i>shd.</i> Haab[e] (ZH)	「ボートの停泊所」	
	<i>shd.</i> Höckli (北部)	「小さな家」	<i>bdt.</i> kleines Haus
	<i>shd.</i> Leset (西部)	「ブドウ摘み」	<i>bdt.</i> Weinlese
	<i>shd.</i> Wimmet, Wümmet (東部)	「ブドウ摘み」	<i>bdt.</i> Weinlese
	<i>shd.</i> Mungg (中部)	「アルプスマーモット」	<i>bdt.</i> Murmeltier
	<i>shd.</i> Nauen (ZG)	「大型貨物船」	

⁵ 略号と州名の対応は、次の通りである。BE=ベルン (Bern)、BS=バーゼル・シユタット (Basel-Stadt)、FR=フリブール (Fribourg)、LU=ルツェルン (Luzern)、OW=オブヴァルデン (Obwalden)、SO=ソロトゥルン (Solothurn)、WS=ヴァリス (Wallis)、ZG=ツーク (Zug)、ZH=チューリヒ (Zürich)。

C2) <i>shd.</i> Amtei (SO)	「役所」	<i>bdt.</i> Behörde
<i>shd.</i> Amtstatthalter (LU)	「予審判事」	<i>bdt.</i> Untersuchungsrichter
<i>shd.</i> Anzug (BS)	「書面により州議会に提出される動議」	
<i>shd.</i> Regierungsstatthalter (BE, WS)	「郡の行政と警察の責任者、自治体とその役所の監督機関」	
<i>shd.</i> Teilsame (OW)	「組合」	<i>bdt.</i> Korporation

以上のような、スイス式標準ドイツ語では用いられるがドイツの標準変種では用いられない語彙に特徴的なのは、フランス語を起源とする借用語の語彙が（ある程度の意味の違いが生じているにせよ）多く含まれているということである。そしてこの点は、方言についても同様である。上記のスイス式標準ドイツ語での借用語に相当する方言の語彙のうち、Weber/Bächtold (³1983)の『チューリヒ方言辞典』に記載されているのは以下に示すものだけであるが、Steiner (1921)がドイツ語圏スイスに入ってきたフランス語の語彙として約1000語を挙げていることから、実際には多数の借用語が方言の中に存在すると考えられる。フランス語の語彙がまず方言に流入し、その後それがスイス式標準ドイツ語でも用いられるようになったのだとすれば⁶、スイス式標準ドイツ語で用いられる大抵の借用語は方言の語彙としても定着していると推測される。

<i>zd.</i> Billeet	<i>shd.</i> Billett	「乗車券」	< <i>frz.</i> billet
<i>zd.</i> Furer	<i>shd.</i> Fourrier	「宿舎・会計係の下士官」	< <i>frz.</i> fourrier
<i>zd.</i> Ggar	<i>shd.</i> [Auto]car	「バス」	< <i>frz.</i> car
<i>zd.</i> Gwaföör	<i>shd.</i> Coiffeur	「(男性の) 理髪師」	< <i>frz.</i> coiffeur
<i>zd.</i> retuur, rötuur	<i>shd.</i> retour	「戻って」	< <i>frz.</i> retour
<i>zd.</i> Schofföör	<i>shd.</i> Chauffeur	「(男性の) 運転手」	< <i>frz.</i> chauffeur
<i>zd.</i> Schüp	<i>shd.</i> Jupe	「スカート」	< <i>frz.</i> jupe
<i>zd.</i> Töff	<i>shd.</i> Töff	「オートバイ」	< <i>frz.</i> teuf-teuf
<i>zd.</i> Velo, Welo	<i>shd.</i> Velo	「自転車」	< <i>frz.</i> vélo

さらに方言では、挨拶言葉などの日常表現にもフランス語を起源とするものがある。これらはスイス式標準ドイツ語では用いられないが、スイスのドイツ語に対するフランス語の影響力の大きさがここから見て取れる。

<i>zd.</i> adie, adiöö, adee	「さようなら」	< <i>frz.</i> adieu
<i>zd.</i> äxgüsi	「すみません」	< <i>frz.</i> excusez
<i>zd.</i> mèrssi	「ありがとう」	< <i>frz.</i> merci
<i>zd.</i> sali, salü	「やあ」	< <i>frz.</i> salut

スイスにおいてドイツ語がフランス語の影響を受けるに至ったのは、中世盛期に始まると

⁶ Rash (2002: 178).

され、スイスを含めたドイツ語圏全体におけるフランス語からの借用は 11 世紀から 14 世紀にかけて貴族階級に多大な影響を与えたフランスの文学や文化に源を発する⁷。そして 19 世紀には、フランス語圏スイスで発展した時計産業がドイツ語圏スイスに進出したのに伴い、フランス語の語彙がスイスの標準ドイツ語や方言で使われるようになったといわれる⁸。

上で挙げたスイス式標準ドイツ語の語彙に関してもう一つ特徴的なのは、古いドイツ語の語彙が（多少の意味の違いが生じているにせよ）多く保持されているという点である。これらは、かつてはドイツ語圏全域で用いられていたが、現在のドイツの標準変種では古風なもの、あるいは廃れたものとみなされる⁹。こうした古い語彙が保たれているというのは、以下に示すように方言についても同様で、ここにもスイス式標準ドイツ語とスイスドイツ語の語彙における共通点が見出すことができる。

<i>zd.</i> aaber	<i>shd.</i> aper	「雪のない」	< <i>mhd.</i> æber
<i>zd.</i> Ame	<i>shd.</i> Amman	「市（町・村）長」	< <i>mhd.</i> amman, ambetman, amtman
<i>zd.</i> änet	<i>shd.</i> ennet + Dat.	「…の向こう側で」	< <i>mhd.</i> jenenthalp, enehalp
<i>zd.</i> Biig, Biigi	<i>shd.</i> Beige	「堆積、山」	< <i>mhd.</i> bîge, pîge
<i>zd.</i> blutt	<i>shd.</i> blutt	「裸の」	< <i>mhd.</i> blôz, plôz
<i>zd.</i> Flue	<i>shd.</i> Fluh	「岩壁」	< <i>mhd.</i> vluo
<i>zd.</i> Götti	<i>shd.</i> Götti	「代父」	< <i>mhd.</i> göte
<i>zd.</i> hüür	<i>shd.</i> heuer	「今年」	< <i>mhd.</i> hiure, hiu(e)r, hiwer, hûre
<i>zd.</i> inert, inet + Dat.	<i>shd.</i> innert + Dat.	「…の内側で」	< <i>mhd.</i> innerthalp
<i>zd.</i> lisme	<i>shd.</i> lismen	「編む」	< <i>mhd.</i> lismen
<i>zd.</i> rèèss	<i>shd.</i> räss	「辛味のある」	< <i>mhd.</i> ræze, râze
<i>zd.</i> Ross	<i>shd.</i> Ross	「馬」	< <i>mhd.</i> ros, roz, ors
<i>zd.</i> Rous, Rouss	<i>shd.</i> Runs, Runse	「急な山腹の岩溝」	< <i>mhd.</i> runs, runst
<i>zd.</i> sèèrble	<i>shd.</i> serbeln	「病弱である、しおれる」	< <i>mhd.</i> serben, serwen
<i>zd.</i> Trotte	<i>shd.</i> Trotte	「ぶどう搾り器」	< <i>mhd.</i> trotte
<i>zd.</i> vernüüte, vernüütige	<i>shd.</i> vernütigen	「軽視する」	< <i>mhd.</i> vernichten, vernûten

次の語はスイスドイツ語の語彙で、方言的な語形のままスイス式標準ドイツ語で用いられているものである。つまり、語形までもが共通している例である。

<i>zd.</i> Zaabig	<i>shd.</i> Zabig	「夕食」
<i>zd.</i> Zvieri	<i>shd.</i> Zvieri	「4 時のおやつ」

以下の分類は、Haas (²2000: 100-101)に基づく。語彙あるいはそれを形成する要素自体は

⁷ Rash (2002: 179).

⁸ Rash (2002: 178-179).

⁹ Rash (2002: 145).

ドイツの標準変種にも出現するものの、意味がスイスでは異なっているというケースが D1)名詞、D2)動詞、D3)形容詞それぞれにみられる¹⁰。これは語の意味におけるドイツとスイスの差異を尺度としているので、上の Meyer (1994)の分類とで語の重複がある。() 内には、ドイツの標準変種における意味を記す。

D1)	<i>shd.</i> Abdankung	「教会での葬儀」	(「退職、辞任」)
	<i>shd.</i> Anzug	「書面により州議会に提出される動議」	(「背広」)
	<i>shd.</i> Bühne	「納屋の屋根裏の干草置き場」	(「舞台」)
	<i>shd.</i> Busse	「罰金 (刑)」	(「悔い改め、賠償」)
	<i>shd.</i> Hausmeister[in]	「家主」	(「家屋の管理人、守衛」)
	<i>shd.</i> Kleid	「背広」	(「衣服」)
	<i>shd.</i> Packung	「手荷物」	(「一包み、包装」)
	<i>shd.</i> Scheune	「豚舎」	(「納屋、穀物倉」)
	<i>shd.</i> Vortritt	「交差点・合流点での優先通行権」	(「先に行く権利」)
D2)	<i>shd.</i> abdanken	「教会で葬儀を行う」	(「退職する、辞任する」)
	<i>shd.</i> büssen	「罰金刑を科す」	(「償いをする」)
	<i>shd.</i> vertragen	「(新聞などを) 配達する」	(「耐える、折り合う」)
	<i>shd.</i> wundernehmen	「知りたいと思う」	(「訝しがらせる」)
D3)	<i>shd.</i> fest	「太った」	(「堅い」)
	<i>shd.</i> sterng	「難儀な、骨の折れる」	(「厳密な、厳格な」)
	<i>shd.</i> wüst	「騒々しい」	(「荒涼とした、乱雑な」)
	<i>shd.</i> zügig	「引く力の強い、人の心をひきつける」	(「迅速な」)

このようにドイツの標準変種において対応する語と意味が異なる場合があるというのも、スイス式標準ドイツ語と方言は共通している。次に示すのは、上記の例に対応する方言の語彙のうち、『チューリヒ方言辞典』(Weber/Bächtold³1983) に記載されているものである。これらはスイス式標準ドイツ語と同様の意味を有している。すなわち、ドイツの標準変種で対応する語とは意味が異なる。

<i>zd.</i> Abtankig	<i>shd.</i> Abdankung	「教会での葬儀」
<i>zd.</i> angaa	<i>shd.</i> angehen	「始める」
<i>zd.</i> Buess	<i>shd.</i> Busse	「罰金 (刑)」

¹⁰ Haas (2000: 101)はさらに、E)ドイツなど他の地域の標準変種にも存在し意味も同じであるが、スイスでのみ使用頻度が高い語彙を示すカテゴリー (Frequenzhelvetismen) を設けている。

E) *shd.* Entscheid 「裁定」 *bdt.* Entscheidung

ただし、各々の標準変種における使用頻度というものを客観的に判定することは困難であるので、このカテゴリーについては、本稿では考慮しないこととする。

<i>zd.</i> Bütüni	<i>shd.</i> Bühne	「納屋の屋根裏の干草置き場」
<i>zd.</i> Huusmäischer	<i>shd.</i> Hausmeister	「家主」
<i>zd.</i> sträng	<i>shd.</i> streng	「難儀な、骨の折れる」
<i>zd.</i> verträge	<i>shd.</i> vertragen	「(新聞などを) 配達する」

ドイツの標準変種との意味的な差異に関して、方言とスイス式標準ドイツ語でどの程度共有されているかを検証するのは実際には容易ではない。というのは、語の意味がある時点ではスイス式標準ドイツ語と方言で共通していても、しだいに方言の語彙のみがドイツの標準変種における意味を帯びてしまうことで、スイス式標準ドイツ語と方言で意味が食い違ってくるような状況も生じうるためである。

以上、スイス式標準ドイツ語と方言の語彙に共通する特徴について見た。ここでは、フランス語からの借用語が多く用いられるという点、古いドイツ語の語彙が保たれているという点、同じ語であってもドイツの標準変種とは異なる意味で用いられるものがあるという点が確認された。

3. 正書法

スイス式標準ドイツ語の正書法に関して最も目を引くと思われる特徴は、<ß>が用いられないという点である。スイス式標準ドイツ語では、<ß>は<ss>で代用される。

<i>shd.</i> Busse	<i>bdt.</i> Buße	「罰金」
<i>shd.</i> Strasse	<i>bdt.</i> Straße	「通り」



図1: チューリヒ市内にて

スイス式標準ドイツ語で<ß>が用いられない要因として、Gallmann (1996)は方言に観察される重子音を挙げている。スイスドイツ語では、ほとんどの変種において歯茎摩擦音/s/は(直前の母音が長母音や二重母音であっても)母音間で重子音となり、この重子音が音節の境

界を形成する¹¹。次の例は、チューリヒ方言ではなくツーク方言のものである¹²。()内の語のハイフンは音節の区切りを表す。

ässe (äs-se)	[ˈæs:ə]	「食べる」
Stròosse (Stròòs-se)	[ˈʒtrò:s:ə]	「通り」(複数形)
ghäisse (ghäis-se)	[ˈʒhæ:ʃ:s:ə]	「…という名/意味である、命じる」

こうした重子音による発音は、スイス式標準ドイツ語の発音にも転用される。そのため、ドイツの標準変種の<ß>に相当する部分は分割して発音される格好になる。つまり、スイス式標準ドイツ語で<ß>が用いられないのはこうした発音上の理由によるというのがGallmann (1996)の説明である。このことは分綴のしかたにも表れており、スイス式標準ドイツ語ではドイツの標準変種における<ß>に相当する<ss>が<s-s>と分割される。これは、ドイツの標準変種では長母音や二重母音と<ß>が分離するのとは異なる点である。

shd. Stras-se	bdt. Stra-ße	「通り」
shd. reis-sen	bdt. rei-ßen	「裂く」

また、スイス式標準ドイツ語の正書法の特徴として、ウムラウトを伴う文字<ä> <ö> <ü> が<ae> <oe> <ue>というように<e>を用いて表記されることがある。とくに大文字<Ä> <Ö> <Ü>の場合は、次のように頻繁に<Ae> <Oe> <Ue>と表記される。

shd. Oesterreich	bdt. Österreich	「オーストリア」
shd. Uetliberg	bdt. Ütliberg	「ユートリベルク (山)」



図2：チューリヒ・ユートリベルク山頂駅にて

方言の場合は標準変種のような厳格な正書法は存在しないが、表記の際にはスイス式標準ドイツ語と同様、<ß>は通常用いられない。他方、大文字<Ä> <Ö> <Ü>の代用として<Ae>

¹¹ Dieth (1950: 420).

¹² 他の大多数の変種とは異なりチューリヒ方言では重子音が生じないという理由から、ここでは重子音を有する変種の一例としてツーク方言を取り上げた。なお、スイスドイツ語の重子音は/s/に限らず、様々な子音で生じる。

<Oe> <Ue>が使用されることもないという点は、スイス式標準ドイツ語と異なる。というのは、(上記の *Stròosse* のように) 短母音の重複によって長母音を表現することが一般的である方言表記の枠組みでは、<Ä>の長母音を<Aeae>とするような表記は混乱をもたらすからである。

4. 発音

母音に関しては、強勢の置かれる母音の長短の差異が特徴的である。たとえば、ドイツの標準変種では短母音であるものが、スイスの標準変種では長母音となるようなケースがいくつかある。こうした現象は方言にもみられ、次の例では、アクセントのある母音は方言とスイス式標準ドイツ語の双方で長母音である。これらは、対応するドイツの標準変種の語では短母音となる。該当の箇所を太字のイタリック体で示す。

<i>zd. Hoochsig, Hoochstig</i>	<i>shd. Hochzeit</i>	「結婚式」
<i>zd. Naachber</i>	<i>shd. Nachbar</i>	「隣人」
<i>zd. Raach</i>	<i>shd. Rache</i>	「復讐」
<i>zd. Rooscht</i>	<i>shd. Rost</i>	「グリル」
<i>zd. Voortel</i>	<i>shd. Vorteil</i>	「利点」

このため、ドイツの標準変種とは異なり、スイス式標準ドイツ語では短母音の **Rost** (「錆」) と長母音の **Rost** (「グリル」) の発音が区別されるということになる¹³。

逆に、ドイツの標準変種では長母音であるものが、スイスの標準変種では短母音となるケースもある。この現象も同様に方言で観察され、次の例では強勢のある母音が方言とスイス式標準ドイツ語の双方で短母音となる。これらは、対応するドイツの標準変種の語では長母音として発音される。

<i>zd. Chräps</i>	<i>shd. Krebs</i>	「ザリガニ」
<i>zd. Lïter</i>	<i>shd. Lïter</i>	「リットル」
<i>zd. Stedt</i>	<i>shd. Städte</i>	「都市」(複数形)

借用語における発音にもドイツの標準変種との違いがある。y はスイス式標準ドイツ語においてはその多くが A)[y]ではなく [i]、あるいは B)[y:]ではなく [i:]と発音される。このような発音は、その表記が示すように方言でも観察される。

A) <i>zd. Gïmi</i>	<i>shd. Gymnasium</i>	「ギムナジウム」
B) <i>zd. Asiïl, Assiil</i>	<i>shd. Asyl</i>	「保護施設」

¹³ Russ (1994: 85).

スイス式標準ドイツ語における子音の発音で主だった特徴として挙げられるのは、p t k は語頭で母音の前に位置する場合には、気音化しない傾向があるということ、そして b d g は無声の軟音 [b] [d] [g] と発音されるということであるが、これは方言的な発音が反映したものである。また、いくつかの借用語（例：Evangelium「福音」、Klavier「ピアノ」、Provinz「州、省、県」、violett「紫色の」など）で v が無声の[v̥] と発音される現象がスイス式標準ドイツ語にみられる。このことは、方言の歯唇摩擦音が有声では出現せず、無声の軟音/v/ と硬音/f/ で区別されるという現象と連動しているといえる。

その他にスイス式標準ドイツ語に関して特徴的なのは、接尾辞-er などにみられる語末の r が、母音化せず舌先音となる点、接尾辞-ig がドイツの標準変種のような [ɪç] ではなく、[ɪŋ] と発音される点、そして ch がドイツの標準変種では [k] となるケースでも [x] と発音される場合があるという点であるが、これらも方言と共通する音韻現象である。方言で接尾辞-ig が [ɪç] ではなく [ɪŋ] と発せられるのは、方言には硬口蓋歯茎摩擦音の /ç/ が出現しないことの表れである。r は方言においても通常は舌先音で発せられ、母音化も生じない¹⁴。また、スイス式標準ドイツ語で ch が頻繁に [x] と発音されるのは、方言ではそれが常に軟口蓋歯茎摩擦音 /x/ として実現されるという現象と関連付けられる。

強勢に関しては、ドイツの標準変種とは異なりスイス式標準ドイツ語では第一音節に強勢が置かれる借用語がある。これらは方言においても第一音節に強勢が置かれる。太字のイタリック体は、強勢のある位置を示す。

zd. Balkoon	shd. Balkon	bd. Balkon	「バルコニー」	< frz. balcon
zd. Büffé	shd. Büffet	bd. Büffet	「食器棚」	< frz. buffet
zd. Büro	shd. Büro	bd. Büro	「事務所」	< frz. bureau
zd. Telifoon	shd. Telefon	bd. Telefon	「電話」	< gr. tēle + phōné

借用語の第一音節に強勢が置かれる現象は、方言では比較的頻繁に生じる。次の例が示すように、スイスおよびドイツの標準変種では第一音節に強勢が置かれなくても、方言では第一音節に置かれるというケースがある¹⁵。

zd. Baromeeter	shd./bd. Barometer	「気圧計」	< gr. báro + metron
zd. Ggusiine	shd./bd. Cousine	「従姉妹」	< frz. cousin
zd. Gítaare	shd./bd. Gitarre	「ギター」	< span. guitarra
zd. Gotlett	shd./bd. Kotelett	「カツレツ」	< frz. côtelette
zd. Grawatt	shd./bd. Krawatte	「ネクタイ」	< frz. cravate
zd. Limenaade	shd./bd. Limonade	「レモネード」	< frz. limonade
zd. Model	shd./bd. Modell	「モデル、ひな型」	< it. modello
zd. Musig	shd./bd. Musik	「音楽」	< mhd. mûsic, mûseke < lat. mûsica

¹⁴ Baur (1992: 14-15).

¹⁵ Weber (1987: 51-52).

zd. Schoggelaade	shd./bd. Schokolade	「チョコレート」	< frz. chocolat
zd. Sekretèèr	shd./bd. Sekretär	「秘書」	< slat. sēcrētārius
zd. Terasse	shd./bd. Terrasse	「テラス」	< frz. terrasse
zd. Zigaar	shd./bd. Zigarre	「葉巻」	< span. cigarro
zd. Zigarett	shd./bd. Zigarette	「紙巻タバコ」	< span. cigarrito

5. 語形成

スイス式標準ドイツ語と方言の語形成に特徴的な現象は、主として接辞に関連する。ここでは、名詞 (5.1)、動詞 (5.2)、形容詞 (5.3) について観察する。

5.1 名詞

名詞の語形成においては、接尾辞自体はドイツの標準変種と共通であるが、ドイツの標準変種では通常用いられない語が形成されるというのがスイスドイツ語とスイス式標準ドイツ語の特徴的な点の一つである。使用される接尾辞の主なものとして挙げられるのは A)-ung と B)-(l)er である。-ung はチューリヒ方言では -ig に相当する。

A)	shd. Gastung	zd. Gaschtig	「店の客 (の全体)」	
	shd. Hirtung	zd. Hürtig	「家畜の飼育」	bd. Viehhaltung
B)	shd. Anstösser	zd. Aaschtösser	「隣人」	bd. Anlieger
	shd. Bänk(e)ler	zd. Bänkler	「銀行家」	bd. Bankier
	shd. Fasnächtler	zd. Fasnächtle	「謝肉祭の参加者」	
	shd. Korber	zd. Choorberr	「かご細工師」	bd. Korbflechter
	shd. Pöstler	zd. Pöschler	「郵便配達人」	bd. Briefträger
	shd. Trämmler	zd. Trämmler	「路面電車の運転士」	bd. Straßenbahnfahrer

また、スイス式標準ドイツ語では -et、-ete、-i、-li といった、ドイツの標準変種には出現しない接尾辞による独特の語形成もみられる。これらは方言と共通する接尾辞である。C)-et は動詞から男性名詞を形成する接尾辞で、これによって形成される名詞は主に年間の定期的な作業や催しを表す¹⁶。D)女性名詞の接尾辞 -ete は日常の営みや、その結果生じたもの、もしくは頻度や度合いにおいて適切でないかたちで反復または継続される行為を表す名詞を形成する¹⁷。E)-i や F)-li は縮小形の中性名詞を作る接尾辞で、家庭用品や服飾、食物など身の回りのもの、あるいは動物や植物の名称に広く使われる。

¹⁶ Weber (³1987: 347).

¹⁷ Weber (³1987: 348).

C)	<i>shd.</i> Blüh ^{et}	<i>zd.</i> Blü ^{et}	「開花期」	<i>bd.</i> Blütezeit
	<i>shd.</i> Heu ^{et}	<i>zd.</i> Hö ^{iet}	「干草の取り入れ」	<i>bd.</i> Heuernte
	<i>shd.</i> Schwing ^{et}	<i>zd.</i> Schwing ^{et}	「スイス相撲の競技会」	
	<i>shd.</i> Wimm ^{et} , Wüm ^{met}	<i>zd.</i> Wüm ^{et}	「ブドウ摘み」	<i>bd.</i> Weinlese
D)	<i>shd.</i> Lism ^{ete}	<i>zd.</i> Lism ^{ete}	「編み物」	<i>bd.</i> Strickarbeit
	<i>shd.</i> Metz ^{ete}	<i>zd.</i> Metz ^{ete}	「畜殺」	<i>bd.</i> Hausschlachtung
	<i>shd.</i> Putz ^{ete}	<i>zd.</i> Butz ^{ete}	「掃除」	<i>bd.</i> Hausputz, Reinemachen
	<i>shd.</i> Schleg ^{ete}	<i>zd.</i> Schleg ^{ete}	「殴り合い」	<i>bd.</i> Schlägerei
	<i>shd.</i> Tanz ^{ete}	<i>zd.</i> Tanz ^{ete}	「踊ること」	<i>bd.</i> Tanzen
	<i>shd.</i> Züg ^{ete}	<i>zd.</i> Züg ^{ete}	「引越し」	<i>bd.</i> Umzug
E)	<i>shd.</i> Gitz ⁱ	<i>zd.</i> Gitz ⁱ	「仔ヤギ」	<i>bd.</i> Kitz
	<i>shd.</i> Muni	<i>zd.</i> Muni	「種牛」	<i>bd.</i> Bulle
	<i>shd.</i> Nugg ⁱ	<i>zd.</i> Nugg ⁱ	「おしゃぶり」	<i>bd.</i> Schnuller
	<i>shd.</i> Rolli	<i>zd.</i> Roli	「ネコ車」	<i>bd.</i> Schubkarre
	<i>shd.</i> Stürm ⁱ	<i>zd.</i> Stürm ⁱ	「短気な人」	<i>bd.</i> Brausekopf
F)	<i>shd.</i> Bettl ⁱ	<i>zd.</i> Bettl ⁱ	「ベッド」	<i>bd.</i> Bettchen
	<i>shd.</i> Gipfel ⁱ	<i>zd.</i> Gipfel ⁱ	「クロワッサン」	<i>bd.</i> Hörnchen
	<i>shd.</i> Päckl ⁱ	<i>zd.</i> Phäckl ⁱ	「小型小包」	<i>bd.</i> Päckchen
	<i>shd.</i> Rippl ⁱ	<i>zd.</i> Rippl ⁱ	「(豚の) 骨付きあばら肉」	<i>bd.</i> Rippchen

5.2 動詞

動詞の形成に関してスイス式標準ドイツ語と方言で共通する特徴は、接尾辞-eln (方言では-(e)le に相当) が多く用いられるという点である。これは様々な名詞と結びつき、その名詞に関連する行為や状況を表現する。-eln 自体はドイツの標準変種にも出現するが、以下の語はドイツの標準変種では用いられない。

<i>shd.</i> beineln	「小またで歩く」(Bein : 「脚」)	<i>zd.</i> bäinele, bäindle
<i>shd.</i> büscheln	「一つの束にする」(Büschel : 「小さい束」)	<i>zd.</i> puschle
<i>shd.</i> ellbögel ⁿ	「肘でかきわける」(Ellbogen : 「肘」)	<i>zd.</i> ellebögle
<i>shd.</i> feuchtel ⁿ	「湿った気配がする」(Feuchte : 「湿気」)	<i>zd.</i> füechtele
<i>shd.</i> fischeln	「魚のにおいがする」(Fisch : 「魚」)	<i>zd.</i> fischele
<i>shd.</i> pützel ⁿ	「入念に掃除をする」(Putz : 「化粧塗り」)	<i>zd.</i> bützele
<i>shd.</i> soldäteln	「兵隊ごっこをする」(Soldat : 「軍人」)	<i>zd.</i> soldäetele

このような接尾辞を用いた動詞は、方言ではさらに頻繁に出現する。以下に例示する動詞はドイツの標準変種のみならず、スイスの標準変種にも対応する語が存在しない。

<i>zd. bääbele</i>	「人形 (Baabe, Bääbe) で遊ぶ」
<i>zd. bänele</i>	「ネコ車 (Bäne) で運ぶ」
<i>zd. beerle</i>	「ベリー (Beeri) を得る」
<i>zd. bödele</i>	「地面 (Bode) を覆う」
<i>zd. büürdele</i>	「折れた小枝の束 (Büürdi) を作る」
<i>zd. dreierle</i>	「1903 年産のワイン (Dreier) を飲む」
<i>zd. määrgele</i>	「切手 (Maargg) を集める」

スイス式標準ドイツ語や方言では、名詞が不定詞の語尾 (方言の不定詞の語尾は-e) と結びついて A) 述語や B) 目的語としての意味を担う動詞が多く用いられる。次に挙げる語はドイツの標準変種にはない。

A)	<i>shd. bauern</i>	「農業従事者 (Bauer) として働いている」	<i>zd. puure</i>
	<i>shd. wirten</i>	「飲食店などの主人 (Wirt) として働いている」	<i>zd. wüirte</i>
B)	<i>shd. abtischen</i>	「食卓 (Tisch) の後片付けをする」	<i>zd. abtische</i>
	<i>shd. betten</i>	「ベッド (Bett) の支度をする」	<i>zd. bette</i>
	<i>shd. heuen</i>	「干し草 (Heu) を作る」	<i>zd. höie</i>
	<i>shd. tischen</i>	「食卓 (Tisch) の用意をする」	<i>zd. tische</i>

もちろん、これらは不定詞でのみ出現可能という制約があるわけではなく、次のスイス式標準ドイツ語の例が示すように、定動詞や分詞となることも可能である (下線筆者)。

(3) Ich bin der letzte, der so bauert, sagt der Mann. (Meyer 1989: 91)

「そのようなやり方で農業をするのは自分が最後だと、その男は言う。」

(4) Plötzlich tischte sie ab. (Meyer 1989: 67)

「急に彼女は食卓の後片付けをした。」

(5) Hinter dem Tanzsaal lag ein kleiner Hof. Im Sommer wurde hier gewirtet. (Meyer 1989: 329)

「そのダンスホールの裏には小さな中庭があった。夏にはこの場所で食堂が開かれた。」

このような名詞が不定詞の語尾-e を伴って形成される動詞は、方言ではきわめて生産的であるように思われる。以下の例が示すように、A)ある動作の対象となるもの、B)ある動作の道具や手段となるもの、C)ある動作の主体を示すもの、D)ある動作の様態を示すものなどがある。また、E)形容詞から動詞へと派生したものもある。これらは『チューリヒ方言辞典』(Weber/Bächtold³1983)に記載されているものの一部で、ドイツおよびスイスの標準変種で相当する語が存在しない。

A)	<i>zd. beere</i>	「ベリー (Beeri) を探す」
----	------------------	-------------------

	<i>zd. birlige</i>	「干し草の小さなかたまり (Birlig) を積み上げる」
	<i>zd. bunge</i>	「樽 (Bung) を洗う」
	<i>zd. bütschge</i>	「リンゴなどの芯 (Bütschgi) を切り取る」
	<i>zd. chööl</i>	「キャベツ (Chööl) の外側の葉を折り取る」
	<i>zd. fasnachte</i>	「謝肉祭 (Fasnecht) を祝う」
	<i>zd. gaabe</i>	「贈り物 (Gaab) をする」
	<i>zd. gaarbe</i>	「穀物の束 (Gaarb) を作る」
	<i>zd. habere</i>	「燕麦 (Haber) の種をまく、燕麦を馬に与える」
	<i>zd. hërdöpfle</i>	「ジャガイモ (Hërdöpfel) を収穫する」
	<i>zd. runggle</i>	「飼料用ビート (Runggle) を収穫する」
	<i>zd. tubake</i>	「タバコ (Tubak) を吸う」
B)	<i>zd. spatte</i>	「鋤 (Spatte) で作業をする」
C)	<i>zd. miese</i>	「苔 (Mies) が生える」
D)	<i>zd. glogge</i>	「鐘 (Glogg) のような形に膨らむ」
E)	<i>zd. chliine</i>	「小さく (chlii) なる」
	<i>zd. chuele</i>	「冷たく (chuel) なる」
	<i>zd. chùürze</i>	「短く (chùürz) なる」
	<i>zd. grobe</i>	「荒っぽく (grob) なる」

5.3 形容詞

形容詞の特徴もまた、主として接尾辞に現れている。使用される接尾辞の語形自体はいずれもドイツの標準変種のもものと共通であるが、スイス式標準ドイツ語や方言では、それによって単語としてはドイツの標準変種に存在しない形容詞が作り出される。その際に用いられる接尾辞で代表的なのは、A)-ig、B)-haft、C)-lich である。-lich は、方言では-li というかたちで現れる。

A)	<i>shd. anmächelig</i>	<i>zd. aamächelig</i>	「魅力的な、心をひきつける」
	<i>shd. bäumig</i>	<i>zd. böimig</i>	「頑丈な、強い、大きい」
	<i>shd. schaffig</i>	<i>zd. gschaffig</i>	「よく働く、勤勉な」
B)	<i>shd. gesamthaft</i>	<i>zd. samthaft</i>	「…の全部」
C)	<i>shd. hablich</i>	<i>zd. habli</i>	「裕福な」

6. 文法

文法的に関して最も特徴的と思われるのは、名詞の性におけるドイツの標準変種との違

いである。方言とスイス式標準ドイツ語との双方において A)男性名詞、B)女性名詞、C)中性名詞であるものそれぞれに、ドイツの標準変種のものとは性が異なる名詞がある。その多くは借用語である。

A)	<i>zd.</i> de Drittel	<i>shd.</i> der Drittel	<i>bd.</i> das Drittel	「3分の1」
	<i>zd.</i> de Ggautsch	<i>shd.</i> der Couch	<i>bd.</i> die Couch	「寝いす」
	<i>zd.</i> de Pösche	<i>shd.</i> der Büschel	<i>bd.</i> das Büschel	「小さな束・房」
	<i>zd.</i> de Taxi	<i>shd.</i> der Taxi	<i>bd.</i> das Taxi	「タクシー」
B)	<i>zd.</i> d Foti	<i>shd.</i> die Foto	<i>bd.</i> das Foto	「写真」
	<i>zd.</i> d Halftere	<i>shd.</i> die Halfter	<i>bd.</i> der/das Halfter	「ピストルの革ケース」
	<i>zd.</i> d Gufere	<i>shd.</i> die Koffer	<i>bd.</i> der Koffer	「旅行かばん」
	<i>zd.</i> d Pfiingste, d Pfiischte	<i>shd.</i> die Pfiingsten	<i>bd.</i> das Pfiingsten	「聖霊降臨祭」
C)	<i>zd.</i> s Efföi	<i>shd.</i> das Pfiingsten	<i>bd.</i> der Pfiingsten	「木葛」
	<i>zd.</i> s Chämis	<i>shd.</i> das Kamin	<i>bd.</i> der Kamin	「暖炉」
	<i>zd.</i> s Chiis	<i>shd.</i> das Kies	<i>bd.</i> der Kies	「砂利」
	<i>zd.</i> s Tram	<i>shd.</i> das Tram	<i>bd.</i> die Tram	「路面電車」
	<i>zd.</i> s Tunell	<i>shd.</i> das Tunell	<i>bd.</i> der Tunnel	「トンネル」

方言では、さらに多くの名詞がドイツの標準変種のものとは異なる性を有する¹⁸。以下に挙げるのは、方言とスイスおよびドイツの標準変種と性が異なる名詞である。スイスとドイツ双方の標準変種と異なり、方言で A)男性名詞、B)女性名詞、C)中性名詞となる語には以下のようなものがある。

A)	<i>zd.</i> de Angel	<i>shd./bd.</i> die Angel	「釣り針」
	<i>zd.</i> de Bündel	<i>shd./bd.</i> das Bündel	「束」
	<i>zd.</i> de Egge	<i>shd./bd.</i> die Ecke	「かど、角」
	<i>zd.</i> de Faane	<i>shd./bd.</i> die Fahne	「旗」
	<i>zd.</i> de Fald	<i>shd./bd.</i> die Falte	「折り目」
	<i>zd.</i> de Gluscht	<i>shd./bd.</i> das Gelüste	「欲求、衝動」
	<i>zd.</i> de Pracht	<i>shd./bd.</i> die Pracht	「華麗、豪華」
	<i>zd.</i> de Schëerb	<i>shd./bd.</i> die Scherbe	「破片」
	<i>zd.</i> de Spitaal	<i>shd./bd.</i> das Spital	「病院」
	<i>zd.</i> de Trube	<i>shd./bd.</i> die Traube	「果実などの房」
B)	<i>zd.</i> d Bale	<i>shd./bd.</i> der Ball	「ボール」
	<i>zd.</i> d Chüürbs	<i>shd./bd.</i> der Kürbis	「かぼちゃ」
	<i>zd.</i> d Floo	<i>shd./bd.</i> der Floh	「蚤」
	<i>zd.</i> d Frösch	<i>shd./bd.</i> der Frosch	「蛙」

¹⁸ Weber (³1987: 119-121).

	<i>zd.</i> d Gufere	<i>shd./bdt.</i> der Koffer	「旅行かばん」
	<i>zd.</i> d Puschle	<i>shd./bdt.</i> das Büschel	「植物などの小さい房」
	<i>zd.</i> d Raam	<i>shd./bdt.</i> der Rahmen	「乳脂」
	<i>zd.</i> d Schättle	<i>shd./bdt.</i> der Scheitel	「頭髪の分け目」
C)	<i>zd.</i> s Bleistift	<i>shd./bdt.</i> der Bleistift	「鉛筆」
	<i>zd.</i> s Chämi	<i>shd./bdt.</i> der Kamin	「暖炉」
	<i>zd.</i> s Chriesi	<i>shd./bdt.</i> die Kirsche	「桜、さくらんぼ」
	<i>zd.</i> s Hungg	<i>shd./bdt.</i> der Honig	「蜂蜜」
	<i>zd.</i> s Kafi	<i>shd./bdt.</i> der Kaffee	「コーヒー」
	<i>zd.</i> s Phack	<i>shd./bdt.</i> der Pack	「包み」
	<i>zd.</i> s Riis	<i>shd./bdt.</i> der Reis	「米」
	<i>zd.</i> s Salb	<i>shd./bdt.</i> die Salbe	「軟膏」
	<i>zd.</i> s Sand	<i>shd./bdt.</i> der Sand	「砂」
	<i>zd.</i> s Tunell	<i>shd./bdt.</i> der Tunnel	「トンネル」

格支配に関しては、ドイツの標準変種では属格支配となる *trotz* (「…にもかかわらず」)、*während* (「…の間」)、*wegen* (「…ゆえに」) のような前置詞がスイスの標準変種では与格を支配するという現象が観察される。方言では、これらの前置詞が属格ではなく与格を支配するのは義務的である¹⁹。というのは、方言が形態的な属格を失っているためである。

zd. wääret em ganz Taag *shd.* während dem ganzen Tag *bdt.* während des ganzen Tages 「一日中」

また、*sein* (「…である」) の補部となる人称代名詞は、ドイツの標準変種のような主格ではなく対格となる。この点も、スイス式標準ドイツ語と方言で共通している。

zd. wänn i dich wär *shd.* wenn ich dich wäre *bdt.* wenn ich du wäre 「もし私が君だったら」

sein の関連ではさらに、スイス式標準ドイツ語と方言の双方で *liegen* (「横たわっている」)、*sitzen* (「座っている」)、*stehen* (「立っている」) が完了形においてドイツの標準変種とは異なり、*sein* 支配となるという特徴が挙げられる。この点はドイツの標準変種とは異なるが、南ドイツやオーストリアの標準変種とは共通している²⁰。

<i>zd.</i> i bi gläge	<i>shd.</i> ich bin gelegen	<i>bdt.</i> ich habe gelegen	「私は横になっていた」
<i>zd.</i> i bi gsässe	<i>shd.</i> ich bin gesessen	<i>bdt.</i> ich habe gesessen	「私は座っていた」
<i>zd.</i> i bi gschtande	<i>shd.</i> ich bin gestanden	<i>bdt.</i> ich habe gestanden	「私は立っていた」

¹⁹ Baur (12002: 70).

²⁰ Meyer (1994: 17-18).

7. まとめ

以上、スイス式標準ドイツ語に特徴的な現象と、スイスドイツ語の言語現象の接点について見てきた。この中では、ドイツの標準変種ではみられない言語現象が語彙・正書法・発音・語形成・文法の各側面において共有されているということが確認された。

スイス式標準ドイツ語における方言的な要素を探る上での今後の課題としては、スイスドイツ語の様々な変種における言語現象との関連を考慮に入れることである。本稿では、スイス式標準ドイツ語に独特な言語現象のすべてについて方言との共通点を明らかにしたわけではなく、現代のチューリヒ方言との対応関係が確認されるものだけを取り上げた。それゆえ、チューリヒ方言から判断しただけでは認識されないようなスイス式標準ドイツ語と方言の接点をさらに見つけ出すことが重要になる。

参考文献

- Ammon, Ulrich (1995): *Die deutsche Sprache in Deutschland, Österreich und der Schweiz. Das Problem der nationalen Varietäten*. Berlin / New York: Walter de Gruyter.
- Baur, Arthur (¹²2002): *Schwyzertüüsch »Grüezi mitenand«; Praktische Sprachlehre des Schweizerdeutschen für Kurse und den Selbstunterricht*. Winterthur: Gemsberg.
- Dieth, Eugen (1950): *Vademekum der Phonetik. Phonetische Grundlagen für das wissenschaftliche und praktische Studium der Sprachen*. Bern/München: Francke.
- Gallmann, Peter (1996): 'Warum die Schweizer weiterhin kein Eszett schreiben.' In: *Sprachspiegel* 52, 124-130.
- Haas, Walter (²2000): 'Die deutschsprachige Schweiz.' In: Bickel, Hans / Schläpfer, Robert (eds.), *Die viersprachige Schweiz*. Aarau: Sauerländer, 57-140.
- Meyer, Kurt (1989): *Wie sagt man in der Schweiz? Wörterbuch der schweizerischen Besonderheiten*. Mannheim / Wien / Zürich: Dudenverlag.
- Meyer, Kurt (1994): 'Das Deutsch der Schweizer.' In: *Terminologie et Traduction* 1, 9-39.
- Rash, Felicity (2002): *Die deutsche Sprache in der Schweiz. Mehrsprachigkeit, Diglossie und Veränderung*. Bern: Peter Lang.
- Russ, Charles V. J. (1994): *The German Language Today. A Linguistic Introduction*. London / New York: Routledge.
- Steiner, Emil (1921): *Die französischen Lehnwörter in den alemannischen Mundarten der Schweiz. Kulturhistorisch-linguistische Untersuchung mit etymologischem Wörterbuch*. Wien: Adolf Holzhausen.
- Weber, Albert (³1987): *Zürichdeutsche Grammatik. Ein Wegweiser zur guten Mundart*. Zürich: Hans Rohr.
- Weber, Albert / Bächtold, Jacques M. (³1983): *Zürichdeutsches Wörterbuch*. Zürich: Hans Rohr.

(北海道大学大学院文学研究科・専門研究員)